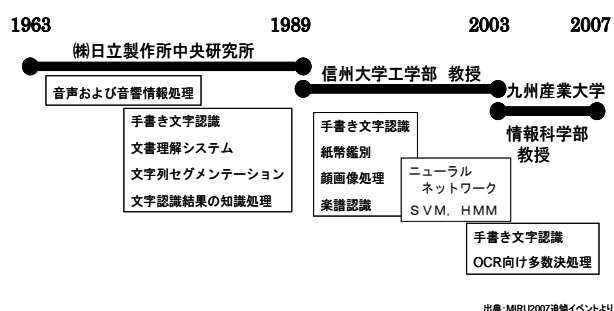


中野先生を偲んで



九州産業大学情報科学部知能情報学科中野康明先生は、去る平成19年7月10日急逝されました。享年69歳でした。中野先生は昭和36年3月東京大学工学部応用物理学科卒業、昭和38年3月東京大学大学院数物系研究科修士課程修了、同年4月株式会社日立製作所入社、中央研究所に勤務されました。日立製作所におきましては日立OCR（光学文字読取装置）事業の立ち上げ時にあたり、中野先生は文字認識アルゴリズムの研究開発および製品開発の指導に尽力され日立OCR事業の立ち上げに多大の貢献をされました。また、平成元年3月には信州大学工学部 情報工学科教授に、平成15年4月九州産業大学情報科学部教授に赴任されました。その間下記に示しますように手書き文字認識を中心に 紙幣鑑別、顔画像認識、ニューラルネットワーク応用、楽譜認識など広くパターン認識の研究に多くの成果を残されています。また、下記に一部を示しますが、国内外の学会にも積極的に活動をされました。九州産業大学では、情報科学部の設立から学部のすべてにわたり尽力され、また、柔和で誠実なお人柄で心から学生の指導をされていました。いま突然のご逝去で改めて中野先生の偉大さとご指導に感謝し、ご冥福をお祈りしております。



IAPR フェロー(2000)
IAPR C&M Committee Member (2000-)
電子情報通信学会フェロー(2002-)
情報処理学会終身会員(2004-)
電子情報通信学会フェロー&マスターズ未来技術研究専門委員会委員(2005-)
第2回文書認識・理解国際会議ICDAR'93 (Tsukuba, 1993) プログラム委員長
第3回文書認識・理解国際会議ICDAR'95 (Montreal, 1995) 広報委員長
第4回文書認識・理解国際会議ICDAR'97 (Ulm, 1997) プログラム委員長
第3回文書解析システムワークショップDAS'98 (Nagano, 1998) 総合委員長
第14回パターン認識国際会議ICPR'98 (Brisbane, 1998) プログラム副委員長
第5回文書認識・理解国際会議ICDAR'99 (Bangalore, 1999) プログラム委員
第6回文書解析システムワークショップDAS'04 (Firenze, 2004) プログラム委員
第8回文書解析システムワークショップDAS'08 (奈良, 2008) 名誉委員長

弔 辞

中野先生、中野さん、中野君。

前後の文脈で、いろいろの呼び方をします。

中野君と初めて出会ったのは、昭和33年(1958年)秋のことだったと思います。進学振り分けでそれぞれ工学部応用物理学科数理工学コースを選び配属されて、集まったときの筈です。総勢7名でした。そのときの状況はほとんど覚えていませんが、それからほぼ50年がたっていました。中野さんの弔辞を私が述べることになるなんて思いもよりませんでした。

2000年の夏頃に、九州産業大学から、情報系の学部を立ち上げたいから尽力してほしいと要請を受けました。坂本先生からは、筑波大学定年後は九州で働きたいということを知っていたので協力を求め、九州工大の有田先生にも協力をお願いして、基本構想を立てる中で、中野さんの都合はどうだろうかと言うことになりました。信州大学の研究室にその場で電話をしたところ、ほとんど即座にOKが出たと記憶しています。

情報科学部の設立は2002年4月です。中野先生は2003年4月に赴任されました。それから4年3ヶ月、中野先生には、新しい学部の動かし方を定着させるために、働いていただいたといえましょう。学部の構想を作り、

カリキュラムを構成し、教員を集めてみても、それだけでは、スタートができるだけです。中野先生は、公式的には、情報科学部の就職実行委員とFD委員会委員を務められました。

まず、就職実行委員です。最初の卒業生が出たのは2006年3月です。彼らの就職状況がどうなるかで、新しい学部の評価が決まります。就職先の開拓は、産業界に情報科学部の存在と内容とを知ってもらわなければなりません。2004年に初めて産学懇談会を企画しました。地元の情報産業界のトップや人事の方に実際に大学に出向いていただき授業参観をしていただいた後で懇談会を催して忌憚のないご意見や提案をいただくというものです。これを最初に実施する際には、福岡情報サービス産業協会会長であるBCCの富田社長のオフィスを中野先生と二人で訪問し、いろいろなアドバイスを受けました。その後、毎年2回ずつ実施して今日に至っています。第1期生が就職活動に入る際には、就職実行委員が学生と個別に面談し、その記録を学生毎に記帳し、卒業研究の研究室毎に仕分けして、担当教員に注意を促すという仕組みを作り上げました。

次に、FD委員会委員として。(FD)とは、ファカルティディベロプメントの頭文字を取ったものです。大学教員の能力開発と訳せばよいでしょう。本年度から、法律で大学教員に義務づけられるようになりました。2004年1月から情報科学部でFD研修報告会を毎月1回のペースで実施することを中野先生が先導されました。研修報告会では、情報科学部教員が毎回二人ずつ報告を担当して、報告と討論を通じて教育内容や教育方法の改善の手がかりを得ようというものです。中野先生は、毎回その幹事を務められました。研修報告会の1週間後には中野先生から詳細な議事録が提出されます。このことを通じてFD研修報告会の価値を教員に認めさせ、会の実施を定着させました。

もう一つ忘れてならないのは、情報科学部教員の採用基準の骨組みを作られたことです。採用基準は、形式的には教授会が決めたものですが、中野先生に対する信頼がなければ、中野先生に原案の作成をお願いすることにはならなかったはずで

す。組織を発足させること自体は、ある意味で易しいことです。組織を維持し発展させるのは、また別の仕事です。この仕事の重要な部分の中野先生に果たしていただきました。教育への情熱と学生への愛情がなければこなせるものではありません。

10日の夜に奥様から電話があり、中野さんが亡くなったと知らせを受けました。その折に、奥様は、これまで二人きりで過ごしたことがなかった。楽しい4年半だったとおっしゃっておられました。それを伺って、私は、ほっといたしました。

中野先生はパターン認識、特に文字認識の研究者として国際的にも著名です。先生の研究業績を讃えるのに相応しい方は他に大勢いらっしゃると思います。私は、中野先生の教育への情熱と学生への愛情をご披露いたしました。

中野さんは、入院中もたくさんのメールを同僚教員や学生諸君に送っています。その中の一部を紹介することをお許しください。

★復職のご挨拶:2007年4月2日(月)10:59 am

情報科学部の皆様

先ほど、<中略>4月1日付で復職の辞令が出ました。昨年度後期は欠勤・休職で皆様にご迷惑をかけ、特に授業の代行をして戴いた各先生、就職実行委員・FD研修報告会担当の先生などに、過重なお負担をおかけしたことをお詫びします。また、<中略>そんなこんなで、あまり出歩きませんし、皆様にお会いしても長い話は困難ですが、事情ご了解の上ご海容下さい。

-- 中野康明

★研究室別学生活動状況(2007.05.07):2007年5月7日(月)2:40 pm

情報科学部教員各位

かなりスタートが遅れましたが、毎月研究室ごとの状況をお知らせします。ついては、添付ファイルで下記をチェックの上お知らせ下さい。

- (1) 研究室人員はこれで良いか
- (2) 卒業延期者(赤字)は正しいか
- (3) 進路等についてご存じの事項

なお、修正箇所のある学生については学籍番号を赤字に変更し、修正内容をU列に追記願います。セルの最後にポインタを持って行き「ALT+ENTER」を押すことにより、セル内で改行できます。

-- 中野康明

★健康状態について:2007年 5月10日(木)5:40 pm

健康状態について、本日受診の結果を報告します。<中略>これらの手術<中略>後は日常生活に戻れるそうです。なお、手術自体は簡単なので、手術当日を除けば入院中に大学に来ること(一時外出)は問題なかろうとのことでした。

-- 中野康明

★病状について(6月14日):2007年 6月14日(木)12:00 pm

6月1日に病状を説明しましたが、退院に向けての報告です。<中略>

(4) 後期の授業について

大学院の講義は履修登録者がいなくなったのでなくなりました。学部は5コマ(3科目)ですが、スライドと音声読み上げソフトウェアを利用して行いたいと思います。音声読み上げは日立中研で開発した製品が予想以上の自然度なので、使用可能と思います。発注予定です。

再来週になったら大学に登校できると思うので、その際詳しく相談したいと思います(筆談ですが)。

-- 中野康明

★病状について(6月26日):2007年 6月26日(火)12:47 pm

<中略>、来週半ばには退院可能と予測しております。ご迷惑をかけておりますが、暫くお待ち下さい。

中野さん、ゆっくり休んでください。

2007年(平成19年)7月13日

九州産業大学情報科学部長 牛島和夫

-- 中野康明

★身体検査の受診:2007年 3月19日(月)12:58 pm

平成20年3月卒業・修了予定の皆さん

既に就職活動を深く進めている人も多いと思いますが、重要なことですので必ず実行して下さい。

大学による新年度健康診断が始まります。

新4年生:3月29日(木) 15:00~

院生全員:4月6日(金) 午前

未受診者:4月7日(土) 17:00~

就職・進学に際して健康診断書は必ず要求されます。大学の健康診断を受診していれば簡単に貰えますが、定期健康診断を受診していなければ、保健所あるいは市立病院などで受診する必要があります。

[保健所等での受診の問題点]

1. 費用がかかる
2. 受診曜日が決っており、タイミングがずれると受診自体が1ヶ月遅れる
3. 診断書発行曜日が決っており、たとえば受診翌日には貰えない

したがって、定期健康診断を受診することの重要性が理解できるでしょう。

春休みのため、大学に来ないためにメールを読まない人も大勢いると思います。このメールを読んだ人は友人にこのメールの内容を伝えて下さい。

-- 中野康明